

2018 年 週間 NY 生活・アメリカの学校紹介と学生ライフのページ

夢の架け橋研修生

東日本大震災被災地から



NPO 法人「東日本夢の架け橋プロジェクト」(代表：大島健志郎、本部：ニュージャージー州)は6日から約2週間、東日本大震災の被災地から高校生2人を招待して、米国研修を行った。

同研修は英語学習と社会勉強体験をすることで震災後における東日本地域の国際化の一助となることを目的として2012年から実施、今年で7年目。今年、宮城県気仙沼向洋高校の2年生、小山さん(17)と鈴木さん(16)が金田教諭の引率で研修に参加した。約2週間、ホームステイをしながらニューヨーク市とニュージャージー州でニューヨーク日本総領事館表敬訪問、宮城県人会歓迎会、昭和マリン株式会社訪問、ヤンキーススタジアムでの野球観戦、自由の女神やグランドゼロなどへ訪問などの研修を行った。

帰国前夜の17日、NY日系人会館で生徒2人の英語によるプレゼンテーショ

ンが行われた。研修関係者や宮城県人会メンバーなど約 26 人が集まり、2 人の英語発表に耳を傾けた。鈴木さんは、「本研修を通じて、今まで以上に世界の人と接したいとの思いを強くした。その共通語は英語。英語の勉強に励みたい」と話し、小山さんは「2020 年のオリンピックの時には英語通訳ボランティアをしたい」と夢を語った。毎年研修生に英語指導をしている篠崎晃さんや本研修のホストファミリーをしているピーター・ロスキーさんも駆けつけ、2 週間の研修成果を温かく見守っていた。同代表の大島さんは、「今年の 2 人は、2 週間で本当に英語が上手になった。発起人の一人が亡くなり、その遺志を継いで 10 年、後 3 年は続けようと思っている」と笑顔で話していた。ブルックリン・ボール・ファクトリーが弁当を提供した。

(小峠かおる)